

「明るくて広々しているな、こつちはどの方角だろう・・・来年今頃にはウッドデッキ越しに、畠の緑が広がっているのかな・・・」図面を見ると北向きのリビング。さんさんとした光ではありませんが、淡い光がLDK全体に広がるその空間にはどこかノンビリとした時間が流れていった。

今回、住宅内覧会を開催させて頂くお家（以下N様邸）に上がった時に感じたことです。コンセプトは「開放的な家」。皆さんの中にも、新築住宅を計画される際、ご要望の一つに「開放的な家」を挙げられる方は少なくないのではないか。様々な住宅雑誌に目を向けましても、必ずどこかで出てくる言葉のように感じます。間仕切り壁を極力なくしLDKの平面構成。空間に実際以上の奥行きを感じさせるスキップフロア等は、こうしたニーズから多く採用され主流になつて来たように思えます。

開放的な家

これに対し、感じ方・求めるものは人それぞれ違うものです。

生活環境は各々であり、その人がそれまでの暮らしで感じた問題やストレス、それから派生する憧れが大きな一因と言えます。「住宅密集地故に、窮屈で昼間なのに部屋が暗い」

↓「明るい空間」「郊外で広々暮らしたい」

「道路に面する窓のカーテンは昼でも閉め切つてある」

↓「外の視線を感じず生活したい」

e t c.

私たちの役目はこれらのご要望にお応えすること。これから一生を過ごしていく住環境づくりのお手伝いです。「開放的な家」というご要望を建築的にアプローチ（間取り、窓や建物自体の配置計画等）するのですが、これには様々ありますので代表的なことを幾つか並べてみましょう。

街中の建築であれば、プライバシーを保つことが無条件で加わりますが、一つ方法として壁で「囲われた庭（インナーテラス）」が有効になります。外部の視線は感じませんし、庭に面する窓からは自然光や通風が十分に確保できます。何よ

りその窓にカーテンは不要になります。

こんな生活を送れたら素敵だと思いませんか？また、お子さんの遊び場が直ぐ目の届く所に出来るという点でも安心感があります。

しかし、これは敷地に余裕がある場合で、実際にはそうは出来ない土地が多いかもしれません。そうした土地での計画であれば、先にも挙げたスキップフロアは非常に有効です。

目線や光が斜め方向上下に抜けることで、平面以上の奥行きを錯覚すると同時に、部屋に明るさが得られます。また上下階（フロア）での間仕切りが少ないため、家族の気配を感じられることも実生活の上では嬉しいポイントになります。

その他に、吹き抜けを設けることも有効で、スキップフロアで得られる様な奥行き感の代わりに、空間の広がりを感じられます。そこにハイサイドライトを設ければ、十二分な採光が得られる。すると共に、天窓同様 空や月が眺められるので、時には季節や天候の移ろいに目を向けるようになるかもしれません。

敷地の大きさに加え、重要なのは方角や周辺環境です。

一般的には南側に大きな窓、庭を配置することがセオリーとされていますが、直ぐお隣が建っている場合や人通りの多い道に面している場合はいかがでしょう。今回のN様邸のように、時にはセオリーや既成概念に囚われずに計画することが求められます。周辺環境を注視することで解決出来ることも多く、かつて機能的で特徴あるお家になることもあります。住宅雑誌で取り上げられる特徴的なお家は単に変わっているのではなく、そのあたりを丁寧に考えていった結果、そうなつたと言えるでしょう。北向きリビングで、淡い光に包まれた開放的なN様邸を是非体感して頂きたいものです。

さて、ここまで建築的なアプローチを少し挙げてきましたが、何が出来そうか、どんな可能性を感じられるかは、建築予定地が決まり次第、試行錯誤していくことになります。今回の住宅内覧会では、土地探し中のお客様に向けた情報も準備させて頂いております。

新築住宅を考えられる上で最初のステップとして、またZuiunのお家づくりを体感しにお越し頂ければ幸いです。

敷地に寄り添う。

zuiun便り vol.36